

徳大・海部病院のスマホ診療支援

救急隊が活用 迅速措置



立海部病院
救命士＝牟岐町中村の泉
検討会でKサポートに
ついて意見を述べる救

搬送中に診断 4カ月で76件

海部郡

徳島大学病院と県立海部病院(牟岐町)が2013年2月から運用するスマートフォンを使った遠隔診療支援システム・Kサポートが、救急救命現場で効果を発揮している。13年9月に導入した地元救急隊の活用実績は12月末までに76件に上り、救命現場から送られる詳細な患者情報が、医師の的確な処置に結びついている。

Kサポートは、都市部の専門医がどこにい

ても送られてくる画像などを基に医師不足の過疎地の診療を支えられるのが特徴。利点を医師間だけではなく、救命士とのやり取りに生かし救命率を上げようと、海陽町の海南消防署、日和佐出張所、

牟岐出張所、室戸市消防東洋出張所にスマホを1台ずつ配備した。活用実績は、1月中旬旬に海部病院で開かれたKサポート検討会で発表された。76件のうち最も多いのは、頭部

13年10月、海部郡の

女性の救急搬送でもKサポートを活用。救命士が、顔面が垂れ下がるなど脳梗塞特有の症状をスマホで発信すると海部病院と徳島大学病院の3人の専門医が即応。病院到着前に症状を診断することで受け入れ準備ができた。

担当した海南消防署の佐藤孝夫救命士(40)は「Kサポートの導入により現場で対応できる救命措置の幅が広がり迅速化した」と言う。

医師や救命士約40人が出席した検討会では、患者のプライバシー情報の管理や通信環境の改善などがシステムの課題として挙げられた。

(土井良典)